

落ち葉は温かい贈り物 山の土と湖の命つなぐ



よなかふしぎわ
世の中には不思議で分かりづら
いことがたくさんあります。自然、
かがくれしきわ
科学、歴史など、詳しい先生に解き
あ
明かしてもらいましょう。

知りたい好奇心

少しずつ分解

紅葉が終わり、落ち葉の季節になりました。みなさんの自宅や学校の庭、街路樹が植えられた道路だけではなく、山の中もたくさん落ち葉で埋まれています。そして、山の中の川や湖の中にも、たくさん落ち葉が風に運ばれ、積もっています。

上の写真は、市川三郷町にある四尾連湖の様子です。この小さな湖には入ってくる川も出てゆく川もありませんが、毎年この季節、下の写真のようにたくさんの落ち葉が湖の中に積もります。私にはこれが、1年に1度の、山から湖への温かい贈り物に思われます。

湖の中に積もった落ち葉は、小さな生き物や微生物によって少しずつ分解され、落ち葉の中に含まれていた栄養分が湖の中へ移ってゆきます。そして、その栄養分は湖の底に蓄えられたり、湖の中の微生物やプランクトンを増やすことに使われたりして、湖内の命をつなげているのです。

では、もう少し視野を広げて周囲を眺めてみましょう。湖の周りの木々は、春に芽吹いて夏に茂りますが、それは、木の根が土に含まれている水や栄養分を吸い上げ、葉が太陽の光を浴びて光合成をおこなって成長する時期と考えることができます。

そんな時期を経て、落ち葉が湖に積もるといふことは、山の木々が1年かけて活動し、蓄えたものの一部を、木の周りの、たくさん生き物たちに分け与えることのように思われます。そう考えると、山の土と湖の命をつなげるものが落ち葉のように見えてきませんか。

巧みな仕組み

自然の仕組みは、本当に巧みです。生き物たちは与えられたものをすべて上手に使いますが、必ず次の誰かに渡せるものも残っています。

春から初夏の湖に行ってみてください。秋に積もった落ち葉はきれいになくなっていくのでしよう。落ち葉のない湖をみて、湖が「山からの贈り物を上手に使いました。ありがとうございます」と、お礼を言っているように思えてきたら、みなさんはもう自然観察の達人ですね。（山梨大学総合研究部国際流域環境研究センター 教授 風間ふたば）



四尾連湖畔の紅葉



湖の中で積み重なった落ち葉